

第40号

発行
北九州地区
信徒使徒職協議会
会長 追立泰治

編集
北九州信徒協広報部
担当司祭 深堀勝人
担当委員 瀬下幸弘

カトリック 北九州地区

信徒協だより

News Bulletin for Catholic Believers' Association in Kita-Kyushu Area

主な内容

- 1面 平和旬間に向って
- 2面 沖縄修道会からの手紙
震災被災地支援活動
- 3面 カン・ウイル司教講演③
- 4面 移住連全国フォーラム
- 5面 司祭紹介
信徒協担当者紹介他
- 6面 シスターズリレー
ニュースあれこれ

第15回 北九州平和の集い

今年のテーマは

平和のために働く決意を新たに

8月9日
小倉教会

2月25日に戦後70周年司教団メッセージが発表されました。『平和を実現する人は幸い——今こそ武力にやらない平和を』平和の集い実行委員会では、2015年北九州平和の集いを司教団メッセージを基本として取り組むことにしました。テーマも司教団メッセージの中から選ばれ、今年の決意が見えます。

災復興支援担当、結婚問題担当等、多忙な毎日です。受洗は天草の大江教会。1993年に司祭叙階。
《川口神父から》(4月の手紙) 与えられたこの機会に司教団の戦後70周年メッセージをよく読んでみます。私どもの浜口司教様によれば、司教たちのパチカン訪問中、アメリカカ合衆国のカトリック新聞社がインタビューを司教団に申し込んだそうです。教会を通じて日本の教会のメッセージはアメリカにも伝わったことでしょう。昔、フィリピン南部の島で独立戦線と政府軍の対立も肌で感じたことがあります。内戦のスリランカを訪問し、空港警備の警察からインド人に間違われました。朝鮮半島の軍事境界線の板門店で見た風景は衝撃でした。司教団メッセージの真意、背景を研究し、わかりやすい説明に努めます。感謝のうちに。

担当されていましたが、今年度は深堀勝人神父(湯川教会主任)が担当司祭になりました。5月25日(月)、信徒協会長、平和の集い実行委員長、社会福音部会担当委員と懇談の場を持ちました。その中で、「平和の集いの歴史と今回の取組」「平和献金」などについて協議を重ねました。

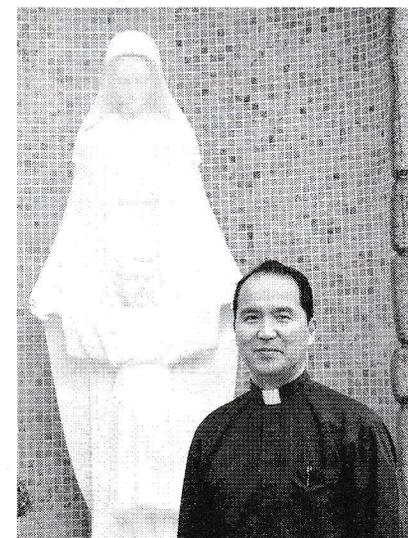
1982年に出された社会司教委員会(当時)は司教総会の決定を受け「平和旬間について」を発表しました。その冒頭で「平和への努力は、すぐれてキリストに従う行為であり、現代の世界にあつて、時のしるしとしての行為である」と述べています。そして「平和への努力が『日本のカトリック教会の使命』とし、日本各地で平和旬間期間中に

平和行事が取り組まれていきます。北九州信徒協では実行委員会を中心に、今回で連続15回目となる平和の集いを迎えるようとしています。

【今年のメイン講師紹介】

川口敏(さとし)神父。勤務は大分教区事務局長、小教区主任、2つの幼稚園園長、9つの幼稚園理事、カトリック難民移住移動者委員会、カリタスジャパン、東日本大震

災復興支援担当、結婚問題担当等、多忙な毎日です。受洗は天草の大江教会。1993年に司祭叙階。
《川口神父から》(4月の手紙) 与えられたこの機会に司教団の戦後70周年メッセージをよく読んでみます。私どもの浜口司教様によれば、司教たちのパチカン訪問中、アメリカカ合衆国のカトリック新聞社がインタビューを司教団に申し込んだそうです。教会を通じて日本の教会のメッセージはアメリカにも伝わったことでしょう。昔、フィリピン南部の島で独立戦線と政府軍の対立も肌で感じたことがあります。内戦のスリランカを訪問し、空港警備の警察からインド人に間違われました。朝鮮半島の軍事境界線の板門店で見た風景は衝撃でした。司教団メッセージの真意、背景を研究し、わかりやすい説明に努めます。感謝のうちに。



▲川口敏神父さま。

超多忙なスケジュールの中を、6月14日、大分司教区本部事務所で、懇談のひとつ時をいただきました。大分県信徒協会会長も同席し、北九州信徒協副会長、平和の集い実行委員長らと話し合いました。

【平和の集い担当司祭】
昨年度までは中村彰神父が

10月12日(月)体育の日
親睦レクリエーション
昨年は台風の影響で中止。
今年はきっと晴れるでしょう。

写真は昨年の大縄跳びの様子

【平和献金先について】
6月21日、北九州典礼部会において、深堀神父から「平和のために祈り、祈りのうちに献金をお願いしたい」と呼びかけが行われました。平和献金送付先を沖縄県与那原の「聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会」とする
(2ページへ続く)

(1面続き)

ことが確認されました。深堀神父は、「シスターズリレ」※(6ページ)を祈りのうちに支援しようと、日本女子修道会総長管区長会報告から「沖繩の方々、特に東村高江の人々に連帯する」(Sr.當間会長)を紹介しました。そして、この趣旨を理解していただき、8月9日の第2部(小倉教会)の中で「平和のため働く決意を」奉納しました。

【Sr.當間会長から事務局に届いた手紙のご紹介】

十主の平和と喜び

ここ沖繩は、あぶらぜみが鳴いています。初夏の季節です。

私たちの会は沖繩で創立された那覇教区立の小さなグループですが、日本女子総長管区長会に属しています。2014年度の全国修道女会の活動の趣旨について同封しました「南の光明」の記事をお読みください。実は、この活動は昨年の5月から今年の5月までの一年間の活動でした。しかし、現地の私たちは、今

の皆さんに寄り添う大事な時と考え、高江での座り込みを続けることを決め、継続しています。

本土の修道会は昨年、祈りと断食とカンパをもって支援してくださいました。日本全国修道女会のこの連帯の姿は高江に支援する方々、また、高江の皆様には大きなキリストの平和を告げることが出来たと確信しています。

さて、北九州信徒使徒職協議会の「北九州平和の集い」で皆様が「平和献金」をとお考えを聞き、ぜひ沖繩が置かれている社会的、構造的、不平等を撤回する運動にご協力くださることをぜひにお願い申し上げます。ぜひ現地にいらして、ご自分の目で、しっかりと沖繩の現状を見ていただけたらと思えます。これは、もちろん政治の問題ですが、現地の私たちにとって「死活問題」です。その辺をご理解いただき、私たちの活動に参加して下さることを切にお願いたします。皆様の活躍の上に神様の豊かな祝福がありますように。 2015年6月

【実行委員長より】

司教団の戦後70年メッセーに感心していたら、考える暇もないうちに実行委員長に押し上げられてしまいました。幸い委員はベテラン揃いですから、私が何もしなくても個々の取り組みは全て上手くいくものと楽観して集いす。多くの参加者を得て集いが成功するように一参加者の目線でお仕えして参ります。

「平和のために働く決意をあらたに」は司教団メッセーから頂戴した今回のテーマですが、決意に留まらず、多くの人と連帯して具体的な「何かをする」ことがもつとも大切です。

あなたは何をなさいますか? 「集い」でヒントをみつけましょう。

門司教会

フランシスコ平松修實

【子どもの広場・出店・他】

平和の集いはみんなの手で作られます。

第一部は13教会で平和祈願ミサ。ここは典礼担当者が大きな役割を果たしています。平和の祈りや歌など、集いの出発点と言っても過言ではあ

りません。その第一部の熱い思いを第二部につなげます。教会によってはマイクロバスや大型バスで小倉教会に参加される教会もあるようです。

11時30分開場の小倉教会では、今年もテント張りに若い力(ダルクのメンバー)が加わります。テント内には日頃から平和活動に取り組んでいるグループが多数出店を申し込んでいます。子どもの広場では、信仰育成部会のみなさんを中心に、子どもの目線で作る「楽しい平和」を準備して

います。遠方から参加される方たちのために、小倉教会の皆さんがカレーを作ってくださいます。

聖堂内では、平和活動の取り組み発表や体験発表、平和コントなどが予定されています。メインの川口神父のお話を聞き、参加者全員で平和を奉納し、平和を祈願します。このような北九州平和の集いは毎年好評です。多くの出会いもある平和の集いに誘い合せてぜひご参加ください。

平和の集い実行委員会

福島からの声の便りから

三ヶ島 富美江(戸畑教会) No.4

嬉しく元気になるお話を伝えます。

イギリス在住の日本人家族からで、6歳と4歳のおきさんが福島のことがかかっている、何かできないか元気になって欲しいと、思い続けていたそうです。それで、親子でメッセージ付きの手作りお菓子を送ろう、と考えました。

イギリスからなので、量は2kgと限られています。一生懸命お手紙や絵をかいて一つ一つ丁寧に、お菓子を作る姿が目につく、福岡さんの心の癒しと力になったようです。支援活動が続いている、忘れ去られていく被災者の過酷な現実などを目の当たりに見聞きして、何もできないご自分の心の便りを感じるそうです。それだけにこの親子の便り、沢山の勇気と頑張る力をもらったそうです。

「負けてなるものか!」「子どもたち、おばちゃん頑張るからね」とイギリスの親子に感謝したそうです。私も思わず心の中から「神様ありがとう」と

正義と平和全国集会福岡大会

カン・ウイル司教基調講演

③

二〇一四・九・十三

文責／編集部

東アジアの平和と福音的展望

韓国国民1%の済州島民と東アジアの平和実現を夢観ながら

「チエジュ島の海軍基地建設」

私のいるチエジュド(済州島)の歴史から「国家とは」を考えてみたいと思います。

チエジュドのカンジョン村に8年前から巨大な軍港を建設しています。8年もかかって、まだ完成していないのは、村人たちと市民団体、私たちはカトリック教会が積極的な反対の意思とキャンペーンを続けてきたからです。最初、政府の国防事業に教会が反対するのは妥当なのかと悩みました。しかし多くのチエジュド島民が心の中では賛成



していないのに国策事業に正面から反対するのを皆あきらめかけていました。それを見て、私は一種の哀しみと憤りを感じました。なぜならチエジュドの島民たちは、歴史の中で韓国本土の人たちから常に抑圧され、そして収奪される体験にあまりにも長く慣れさせられていたからです。この状況下で教会さえも沈黙してしまえば、この力のない小さな者の小さな声は誰も耳をかさず歴史の流れの中で忘れ去られてしまう気がしてなりませんでした。

私は司祭たちと連帯し、この問題を世論に訴えはじめました。教会の中で異論もありました。国家の安保問題に教会が口を出していいのか、という問題提起もありました。チエジュドという島は、韓国で自然が最も保存されている島で、韓国人が一番旅行

したい観光地です。しかもカンジョン村は、チエジュドでも一番海が綺麗に保存されているところ。政府自身も自然絶対保存地域と指定し、開発を一切認めなかったところです。そこに巨大な軍事施設を建設するのは、誰がみても大変な自然破壊行為です。チエジュドの位置は中国と日本の真ん中です。中国大陸まで直線距離で400km。昔、日本が中国の南京を攻撃した時にチエジュドから戦闘機が飛び立っていました。だから韓国政府はチエジュドを「世界平和の島」と宣言しました。そこに新しい海軍基地を建設すれば、アジアに新たな軍事的緊張を呼び起こすことにほかなりません。もし私たちが反対しなかったら数年前に完成されていたと思えます。その間、この基地建設を阻止するために大勢の人たちが犠牲を払ってきました。聖職者、修道者、信者、他宗派の方々等多くの人々が連行逮捕され、裁判で実刑判決を受けました。イエズス会の神父さんなど何ヶ月も刑務所に入られ、住民たちも刑務所に入

れた人たちがいます。カンジョン村のほとんどの人たちが何かの口実で罰金を課せられました。その総額が何億ウォン以上というとても払いきれない額なのです。それで市民団体が一緒になって罰金を肩代わりしようという運動を広げております。過去8年間、いろいろな試練がありましたが、今振り返ってみますと、チエジュド教区の司祭と共同体が「平和とは何か」について、前は考えなかった次元にまで深く考え、行動し守っていかうという意識の変化が出来たことは神様に感謝しています。今でも毎日、工事現場前で路上ミサが行われています。そして住民たちにとってそのミサが唯一の支え、海軍基地反対のシンボルになっています。

「チエジュ島、戦後の歴史」

4・3事件

私がカトリック司教としてチエジュドの新しい海軍基地建設に反対せざるを得なかったのは、国際関係とか環境的要因よりも、チエジュ島民が現代歴史の中で本当に痛ましい重荷と、彼らが背負ってき

た傷のためなのです。太平洋戦争が終わり、韓国は日本の植民地支配から独立しました。しかし、独立の喜びは東の間で、韓半島は北はソ連軍、南はアメリカ軍が進駐したため、依然異邦人の支配下に置かれました。そして韓半島はアメリカとソ連の争いにより、右翼と左翼のイデオロギー的勢力が激突する場となりました。その結果、チエジュドの島民が決して忘れることのできない4・3(よんさん)事件という大惨事が引き起こされてしまいました。チエジュドは火山地帯で、主な産物は麦や小麦、野菜類、水産物など小規模農水産業で住民は生計を立てていました。言語も文化も、沖縄が日本と違うように、チエジュドも韓国本土とはかなり違いがありました。

1948年2月、国連総会は韓半島の可能な地域だけでも選挙による新しい独立政府を樹立しようという決定を可決しました。それにより同年5月、38度線の南半分だけで総選挙が行われました。ところがチエジュドでは、(次号)

「第10回移住労働者と連帯する全国フォーラム・関門2015」 開催されました! 6月13日(土)13時~14日(日) 八幡西区、九州朝鮮中高級学校にて

第一回の全国フォーラムは福岡市のカトリック大名町教会でした。その後、全国各地で開催してきましたが、各地で開催するのはこの活動が開催する地域に根付くためです。

今回は再度九州でという要望でしたが、検討した結果、関門地区で開催することにし、下関労働教育センターの林神父様に共同代表になっていただきました。当日には、下関地区の人や広島教区の司祭やシスターも多数来られました。地元では北九州市や国際交流協会のスタッフも多数参加。また、日本カトリック難民移住移動者委員会から協力金が送られ、東京から担当スタッフも参加しました。カトリック労働者運動(ACO)からも協力金を出していただき、当日の受付をACOの人たちが担ってくれました。



参加者数は1日目が350名・2日目が250名の参加でした。参加者には北九州市から色々な資料が寄付されましたので、関門の観光をして帰った方もたくさんいたようです。

■1日目 ————— 実行委員会より基調報告後、8つのテーマに分かれて分科会

どの分科会も教室に入りきれない程の参加者で熱心な報告と討論が行われました。

分科会のテーマについては、ビラを北九州地区の教会には配布しましたのでご存知の方も多いと思いますが、見ておられない方もおられるのでテーマだけ列挙します。

日本社会に定住し働いている在日外国人たちの問題ですから、日本人にも共通する多様な問題が存在します。移住者と日ごろから接して、彼らの問題に直面している人たちが、北海道から熊本までの全国から参加して熱心な討論が行われました。

①外国人労働者の課題 ②技能実習生問題 ③改定入管法の課題 ④教育と貧困問題 ⑤移住女性の人権 ⑥外国籍住民の医療と保険 ⑦排外主義とヘイトスピーチ ⑧地域に生きる在日外国人と作る多文化共生社会

■2日目 ————— 3つのテーマで短い講演会

①政府の外国人労働者受け入れ制度

東京オリンピックと震災関連で人手不足となっている建設業界に外国人技能実習生の滞在年数を延長することや、過去に日本で三年間働いて帰った労働者の再雇用などが検討されています。ところが日本の労働災害の40%がこの業界であることから危険視されています。しかし、安い労働力の確保には外国人労働者しか無いという結論で法案が提出されようとしています。

この問題の解説と詳しい資料が配布されました。

②外国人排外主義・ヘイトスピーチ問題

講師に大妻女子大の在日韓国人の教授に来ていただき、被害者の立場から学問的な部分も含めて分かりやすい話がありました。

③EPA制度による外国人看護師候補生の受け入れ

宗像の日本赤十字九州国際看護大学で教鞭を取っている、ペルー人のエレーラ・ルルデスさんがパワーポイントを使いながら話をしました。彼女は国外にも度々出張して彼女たちの現状を詳しく知っていますので、大変貴重な話がありました。

最後に関門フォーラム大会宣言を発表してフォーラムを閉会しました。

午後は同じ会場をお借りして、全国ネットワークの総会が行われ、任意団体の全国ネットは解散し、NPO法人組織が発足しました。これからはNPO法人として活動することになりました。



教区信徒協について

北九州信徒協会長
追立泰治

教区信徒協は福岡・熊本・佐賀・筑後・北九州の5地区で構成されています。熊本・筑後両地区は信徒協が宣教司牧評議会となり、その評議会から信徒代表が参加しています。北九州からは私と北川卓也(小倉・桑野貴巳子(門司)両副会長が参加させていただいています。

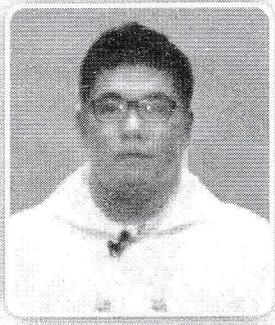
毎年9月の信徒研修会を今年度は1月11日(月・成人の日)に行うことになりました。予定に入れていただければ幸いです。

先日、福岡教区信徒協発足25周年記念誌(1997年)手にしました。同誌によると、教区信徒協は1971年11月に発足し、今年44年目。大神学院で行われた発会式兼信徒使徒職大会では、平田三郎司教様の司式でミサが行われ、1300人の信徒が参加したとのこと。年輩の方々の中には懐かしく思い出される方もいらっしゃるでしょう。記念誌には司教様やシスター方・信徒の方々のお話もあり、福音宣教の思いがひ

しひと伝わってきます。信徒の特性は在俗性、社会の真つただ中に生きていることにあります。私達信徒は、さまざまな悪・誘惑がはびこる社会の中、家庭や学校・職場を通して生き、活動する(生活する)中で福音を生き、伝えることで、最高に自分の命を生きる(平山孝明司教様)お恵みをいただいています。

今年3期目の地区信徒協会長をさせていただきますことになりました。喜びを持って、皆さんと共に信徒使徒職を生きていきたいと思えます。どうぞよろしく願います。

司祭紹介コーナー



小倉教会・門司教会
協働司祭

ペトロ
李昇炫(イ・スンヒョン)
神父

『司祭談』 2015年4月12日、福岡大名町教会に於いて、ドミニコ宮原良治司教様の司式により、司祭叙階の秘跡を授かりました。叙階式の後、すぐに宮原司教様から任地の発表があり、司教様からの発表のとおり、今、小倉教会と門司教会の協働司祭として、奉仕しています。

叙階される前、私は司祭職を歩んでいくにあたっての心構えとして、聖書に書かれた「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」というイエス様のみ言葉を選びました。司祭とならせていただいたばかりで、経験も足りず、まだ未熟なところがたくさんあると思いますが、このイエス様のみ言葉に従って頑張っていきたいと思いますので、どうぞお祈りください。よろしく願います。

『信徒談』 門司教会から常駐の神父様がなくなることは初めての経験です。その不安ばかりのところにお慰みでした。穏やかで信徒を理解してくださるようなやさしいお言葉や物腰に「共に喜び、共に泣く」モットーを伺うことができます。お説教の中でご自分の事、ご家族のことなどを悲壮感なく微笑ましくお話なされ、福音の説明も失礼ながら、神学生さんのように丁寧です。言葉のハンディを感じていられるのですが、いえいえ、余りあるものが光っています。朝ミサ、主日のミサなど、ご多忙で小倉教会との往復に大変ですが、ご健康に留意されてご指導ください。神父様の若さに希望がもてます。

2015年度 北九州信徒協体勢

【役員】

会長／追立泰治(行橋)
副会長／北川卓也(小倉)

桑野貴巳子(門司)
平田豊敏(湯川)

会計／岩永 豊(若松)
会計監査／下田 猛(天神町)

書記／(副会長より選出)
顧問／濱 鶴松(黒崎)

【部会担当司祭・信徒】

信徒協／牧山勝美神父・追立泰治
聖書部会／ペリオン神父・徳永 哲
典礼部会／牧山美好神父・谷口初男
青年部会／大塚了平神父・北川卓也
広報部会／深堀勝人神父・瀬下幸弘
信仰育成／大塚了平神父・桑野貴巳子
社会福音部会
／深堀勝人神父・岩本ナセ

※各部会から活動案内があります。
ふるってご参加ください。

【年間の取組】

平和の集い…8月9日(日)
親睦レク…10月12日(月)
年末街頭募金…年末(各小教区で取組)
司祭との懇談…16年1月17日(日)
※教区信徒協研修会
…16年1月11日(月)

よろしく願います

ご存知ですか？ シスターズリレー

3月29日、第1回平和の集い実行委員会が開催されました。このときにテーマやメイン講師など案を出し合います。平和献金先について話し合っていると「シスターズリレー」のことも出されました。しかし多くの実行委員たちには「シスターズリレー？何、それ」という感じでした。冗談っぽく「シスターたちが走る？」という質問も出されました。2015年度の祈りと平和献金先を沖縄県の「聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会」と決めましたが、「シスターズリレー」とも関係がありますので、少しご紹介します。

①東日本大震災の後、日本の活動修道会の連盟組織である「日本女子 修道会総長管区長会」は、日本中の女子修道会に声をかけ、2011年4月1日から1週間ずつ、各会のシスターたちが3人～4人、各ベースを支援するためにマラソンリレーのように、支援のリレーをつないでいこうという「シスターズリレー」が始まりました。

(仙台教区復興活動ニュースレター33号より)



②2年目に入った2012年度は「修道会相互の連帯を深め、被災地の早期復興と被災された方々との絆を強める」ことを目的として、祈りのシスターズリレーを始めました。



(このように修道会の枠を超えてシスターズリレーは東日本大震災の被災地での活動をしてきました。そして2014年5月の日本女子修道会総長管区長会総会で「シスターズリレー」の第3弾として、沖縄への連帯行動を決めました。)

(カトリック新聞オンラインより)

③(那覇教区「南の光明」671号より 聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会会長 Sr.當間)

「いのちを優先する社会を目指して」—苦しむ人々の声を聴き連帯する—を決議し、具体的な行動として、「シスターズリレー」の第3弾「沖縄の痛みを連帯して、土曜日は特に高江のひとびとのために祈りと断食をする」を採択しました。…また各修道会からのカンパも届いています。1ヶ月分まとめて高江の住民の会代表伊佐さんにお渡ししています。…

.....

「シスターズリレー」に参加している修道会は、それぞれ独自の祈りと活動を通して連帯の輪を広げています。

私たちの住む北九州にも「シスターズリレー」に参加している修道会があります。次号ではコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の活動を紹介したいと思います。

「祈り」「沖縄の方々の声に耳を傾けて」「その他」など。

ニュースあれこれ

◆湯川教会からお知らせ

隣接の聖母園を建設中のため、10月竣工まで、正面入口からは人も車も進入ができません。お出での節は、曾根寄りの裏の通路から来ることができます。車は、最寄りの駐車場にお願いします。

◆ザビエル像がJR大分駅前

4月にリニューアルした大分駅。とてもきれいです。出会った真宗のお坊さんが「駅前にフランシスコ・ザビエル像が建っている!!」と目を白黒。川口神父曰く、観光用です。

◆あなたも沖縄へ行ってみられませんか？

シスターたちもとても元気でした！高江は全国の修道院とつながり、非暴力を貫き「基地(武力)で平和はつくれない」ことを訴えています。7年前、カトリック信者の伊佐さんの発信から広まった高江問題。「からし種」を実感しました。辺野古の美しい海と空も、血に染まった南部の彼の目を繰り返してはいけません。

た。70年前の沖縄の壮絶な地上戦の犠牲なくして私たちの平和はないのです。巨大軍事施設をこれ以上造る必要があるのでしょうか。「命ドウ宝(ヌチドウタカラ)」がイエスのみ言葉と重なり響いてきました。

編集室の窓

*新しく広報担当になられた深堀神父様と共に歩んでいきます。よろしくお願ひします。信徒協広報紙は、その使命として使徒職活動を知らせ推進させることです。それを見做います。もちろん楽しい記事も掲載していきたいと思えますので、どんな小さな記事でもお寄せ下さい。

*大分教区の信徒協は大分県と宮崎県の2つ。またその2つの県は、昔から交通の便がよくなくて、人々の往来もあまりなく、信徒のつながりもまた然りだそうです。ところで今回、大分訪問で感じたことは「教区の壁」です。佐賀や熊本は信徒とはつながってききましたが大分は蚊帳の外にありました。自分の中の壁を壊せば学ぶこと多し。(瀬下)